

# キャリア教育だより 第10号

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和6年3月発行

## 令和5年度相模原市キャリア教育推進委員会(増刊号)

令和6年2月29日(木)にキャリア教育の第一人者であり、本市キャリア教育推進委員である筑波大学の藤田教授とオンラインにて会議を行いました。1月24日の「令和5年度第2回相模原市キャリア教育推進委員会」は残念ながら参加できませんでしたが、今回本市のキャリア教育推進についてオンラインでご助言をいただきましたので、ご紹介いたします。令和6年度、子どもたちにどのようにキャリアの力を育てていくか、先生方のヒントになれば幸いです。



筑波大学 藤田教授

### 【藤田教授のお話からのヒント】

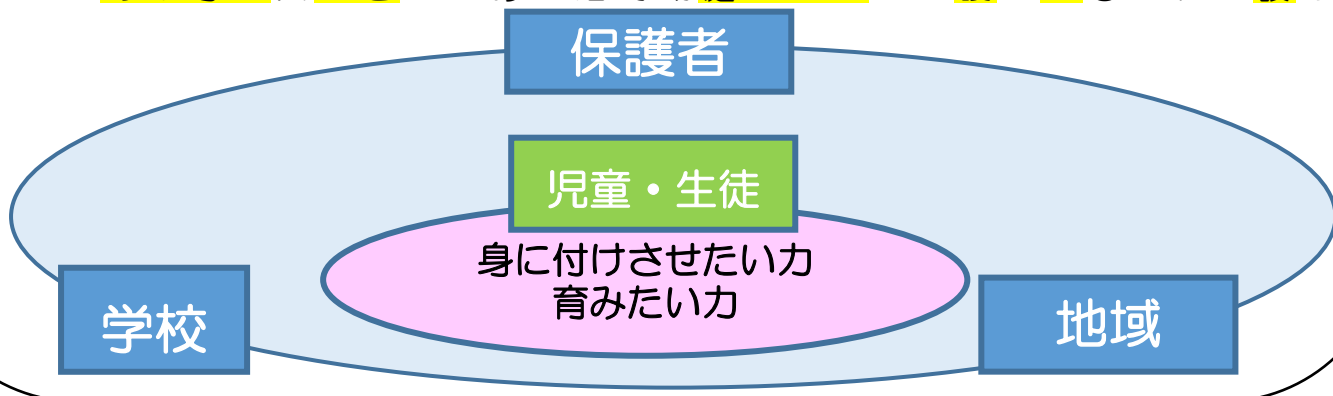
- ①身に付けさせたい力(育みたい力)の具体化  
→客観的な評価ができ、PDCAサイクルがまわる
- ②身に付けさせたい力(育みたい力)を保護者・地域と共有する  
→子どもの成長を地域で見守ることができる

PDCAサイクルを正しく回すためには、具体的な身に付けさせたい力を設定することが大切である。方向性やローガン、心がけてなく、具体的にどういうことができるようになったかである。身に付けさせたい力が設定されていると、子どもも自覚的に自分の成長が見てとれる。

さらに、身に付けさせたい力を保護者・地域にどれだけ理解されているかも重要である。

例えば「やらなければならぬことがあったときに、苦手なことでも最後まで取り組むことができる」と具体化すると夏休みの宿題への子どもとの取組を家庭でも褒めることができる。具体的に行動として表れる力を子どもは褒められて嬉しく、保護者も褒めることができて嬉しい。だから、学年の身に付けさせたい力を保護者と共有することが大切である。

また、中学校2年生の職場体験を通して特に身に付けさせたい力を事業所と共有されていると、生徒の成長を先生が褒めることができる。学校と事業所が共に子どもの成長を見て取れる。保護者・地域も当事者意識を持ち子どもを見守るためには、ゴール(具体的な身に付けさせたい力)を共有することが大切である。具体的な力を学校が設定し、地域・保護者と共有することを進めてほしい。



キャリア教育推進委員会で話し合われた内容の詳細は市ホームページに掲載されております。

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisei/1026896/shikumi/1026898/1005653/1028963.htm>

